

都市再生整備計画 第2回変更

やまのべちく
山辺地区

やまがたけん やまのべまち
山形県 山辺町

平成26年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	山形県	市町村名	山辺町	地区名	山辺地区	面積	93 ha
計画期間	平成 22 年度 ~ 平成 26 年度	交付期間	平成 22 年度 ~ 平成 26 年度				

目標

大目標:地域資源や都市ストックを活用した町民が誇りを持てる「まちの顔」としての再生。

目標1:地域の誇りである歴史・文化の継承。

目標2:まちの交流や憩いの場としての商店街の再生。

目標3:コミュニティの交流活動、観光活動の活発化。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

○山辺町は県都山形市に隣接することから、商圏拡大や山形市の発展の影響を受け商業的な衰退が進み、また、役場の移転や住宅地の拡大、大型店進出の影響により中心性の低下に拍車がかかっている。賑わいを見せていた商店街も影響を受け、後継者不足や高齢化、競争力の低下などと相まって、販売額の落ち込みや空き店舗化が進み、商店街の維持も難しくなっている。また、それに合わせて人口も減少し、高齢化も進んでいる。一方、旧城下町の面影を残す路地や多くの社寺、伝統的な建物などが残されており、古くから受け継がれてきた伝統や歴史の雰囲気を持していく意識もあり、町民のこころのよりどころとなっている。

○平成20年度より地元活動組織であるYOUBASE会が発足され、行政と一緒に勉強会や事例視察、実践活動などを行う中で、まちなか再生を様々な事業制度などとの組み合わせで実現することを考え、連携した取り組みを展開する事としている。

課題

○町にとって、中心地を再生することは町全体を元気にさせる重要な課題としてあり、中心地にある地域資源を活かして町民にとって誇れるまちに、訪れる人にも楽しく思い出が生まれるまちにすることが必要である。

○山辺をアピールする気持ちや「山辺の顔づくり」に対する住民の意識は高く、住民が連携して町の貴重な資産を守り、個性ある景観を維持し、愛着と誇りが持てるまち並みを再生する活動が芽生えてきている。

課題として以下の3つが挙げられる。

□ 「まちの顔」再生の重要な資源である歴史・文化の継承が重要である。

町民が誇りとする地域の歴史や文化、受け継がれたまち並みを守り高め、来訪者にとっての魅力をも高める。

□ 街の中心である商店街の魅力向上が必要である。

商業的に衰退しているものの居住者の生活空間としては必要不可欠であり、商業機能だけではなく他要素も含めた魅力の向上が必要である。

□ 交流活動等を促すための基礎的な条件確保が必要である。

コミュニティー活動、商店街の賑わい、町外からの来訪者増を促すには、地域で活動するための環境が不足しており、活動の場や訪問先とのネットワーク整備が重要である。

将来ビジョン(中長期)

○「第4次山辺町総合計画」(平成19年度～平成29年度)では、『きらりと輝き続ける、協働のまちづくり』をまちづくりの基本理念とし、自立した生活圏を創ることをまちづくりの基本目標の一つに掲げており、その達成には中心地が大きな役割を果たすと考えられる。また、人と心と文化を育むまちづくり、美しく住みやすい安心安全なまちづくり、豊で活力ある産業のまちづくりなども施策として掲げている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
ふるさと資料館・交流施設利用者数	人/年	ふるさと資料館・交流施設の年間利用者数	交流や歴史・文化の継承と育成の場となるには多くの方々に利用される事が重要であり、施設利用者数増加を目指す。	3756 (H20実績)	H20	4,000	H26
仲町・本町通り空き店舗数	店	商店街の空き店舗数	商店街の魅力化の一つに空き店舗をそのまましておかない状況が必要であり、利活用するなど空き店舗数の減少を目指す。	13 (H19調査)	H19	10	H26
イベント開催数	回/年	住民主体イベントの開催数	住民の「うるおい」と来訪者に対する「おもてなし」の為に花いっぱい運動を定着化し、コミュニティの交流活動、観光活動を活発化する。	0 (H20実績)	H20	2	H26

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>■整備方針1【歴史・文化の継承と受け継いだ街並みを守り、来訪者にとっての魅力高める】</p> <p>○ふるさと資料館を歴史・文化の核として充実させるために、景観整備を行う。</p> <p>○歴史・文化性のある美しいまち並みを形成するために、景観上支障となる電柱や照明灯等の移設や官民境界部分及び建物ファサードの修景整備を行う。</p> <p>○安国寺門前の街並み景観の保全と整備を進め、歴史的観光資源として環境整備を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高質空間形成施設(基幹事業:緑化施設等—ふるさと資料館景観整備事業) ・地域創造支援事業(提案事業:沿道景観整備事業) ・地域創造支援事業(基幹事業:町道安国寺門前1号線道路高質化事業)
<p>■整備方針2【交流・憩いの場づくりと様々な活動により商店街の魅力向上と賑わいを生み出す】</p> <p>○交流・憩いの場づくりのために、広場整備、既存施設、空き店舗活用により交流の拠点を創り出す。</p> <p>○商店街のイメージアップや活性化を導くために、商店街の活動支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既存建物活用事業(基幹事業:既存建物活用—交流施設整備事業) ・地域創造支援事業(提案事業:商店街活性化支援事業) ・地域創造支援事業(提案事業:沿道景観整備事業)
<p>■整備方針3【地域で活動するためのネットワーク環境を創り出す】</p> <p>○自転車利用の促進やまちなか巡りのために、駐輪場とレンタサイクル場、休憩コーナーを整備する。</p> <p>○まちなか巡りや施設を利用しやすくするために、情報板を整備する。</p> <p>○町民の誇りの共有化や、訪ねる人には楽しい思い出が生まれるために、MAPづくりなどを行う。</p> <p>○町民の参加により、様々な空間の利用促進を検討することで、事業効果のある事業とする。</p> <p>○各種の事業を円滑に進め、目標に向かって確実な効果をあげるために、事業効果分析を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(基幹事業:自転車駐輪場—駐輪場・レンタサイクル整備事業) ・地域生活基盤施設(基幹事業:情報板—情報サービス事業) ・まちづくり活動推進事業(提案事業:まちなか観光支援事業) ・事業活用調査(提案事業:利用促進調査) ・事業活用調査(提案事業:事業効果分析)

その他

○山辺の歴史・文化

山辺町の歴史は古く、840年ごろに出羽郡司だった小野良実が山野辺城を築いたとされており、小野良実は小野小町の父親とされる人物で、山辺町には小町手植えとされる愛宕神社の大杉や小町が産湯に使った泉が残されている。奈良時代にはすでに糸里制が取られ早くから開けてきた地域で、1356年には全国66か寺建立された安国寺の一つがある。最上舟運が盛んだった町で紅花などを扱い豪商となる商人も現れ、山間部で「からむし」を栽培し織物として上方まで運ばれていた。当時をしのばせる催しの雛街道があり、昔の雛人形を飾る。

山辺町は森と湖沼の町と言われるように県民の森に13の湖沼があるなど、自然豊かで山間部にはまんだらの里の作谷沢や棚田の大蔵、玉虫姫伝説の玉虫沼の他、最上軍と上杉軍の最初の激戦地の直江兼続率いる上杉勢約2万の大軍を迎え撃った畑谷城址がある。また、山辺町から眺める山形市の夜景は「星降る道」として有名である。

一方、まちなかに目を向けると、町の発展を支えてきたニットなどの繊維産業は衰退傾向だが、伝統と文化のまちを象徴しており、伝統産業では手織絨毯で有名なオリエンタルカーペットなど、歴史・文化では全国的に珍しい400mほどしか離れていない山野辺城址と高橋城址、旧山野辺陣屋玄閣、安達峰一郎生家、歴史・文化の発信地となっているふるさと資料館などがある。

また、多くの社寺があり、天満神社、諏訪神社、愛宕神社の三社祭りで行われる稚児行列は有名である。

まちなかに城があったこともあり、道路が三又路や喰い違いになっており、安易に直進できない工夫がなされている。また、坂道や石垣も多く残されている。このような道路と歴史的建物がそのまま残されているのが、まちなかの大きな特徴となっている。

山辺の特産品としては、手織絨毯やファッションニットの他、品質の高いさくらんぼや山辺の湧水で育ったわさび、古くから伝えられてきた鯉料理などがある。

○まちづくり活動

山辺町ではまちづくり活動がようやく根付いてきたところであり、その一つに平成20年に発足したYOUNBASE会の活動がある。

発足したのは平成20年だが、活動は平成17年より始めており、東北芸術工科大学との連携などから、まち歩きや学生との意見交換会、勉強会などを開催し、そのような活動が実を結び形で発足にいったと言える。

この会は、まちなかを元気にしようという計画だけでなく実践活動もっており、これまで、まちなか再生の計画づくりを柱に、実践活動として住民から要望が強かった駅前通路の照明を検討し、現在1基の設置を行っている。

また、まちづくりの事例視察も積極的に行い、意見交換やまちづくりに関しての勉強も行っている。

山辺町としてもYOUNBASE会と連携してまちづくりの検討を行っており、今後のまちづくり事業推進の大きな力となると考えている。



安国寺



高橋城址



安達峰一郎生家



オリエンタルカーペット



歴史的建物



石垣



山野辺城址



旧山野辺陣屋玄閣



ふるさと資料館



歴史的建物



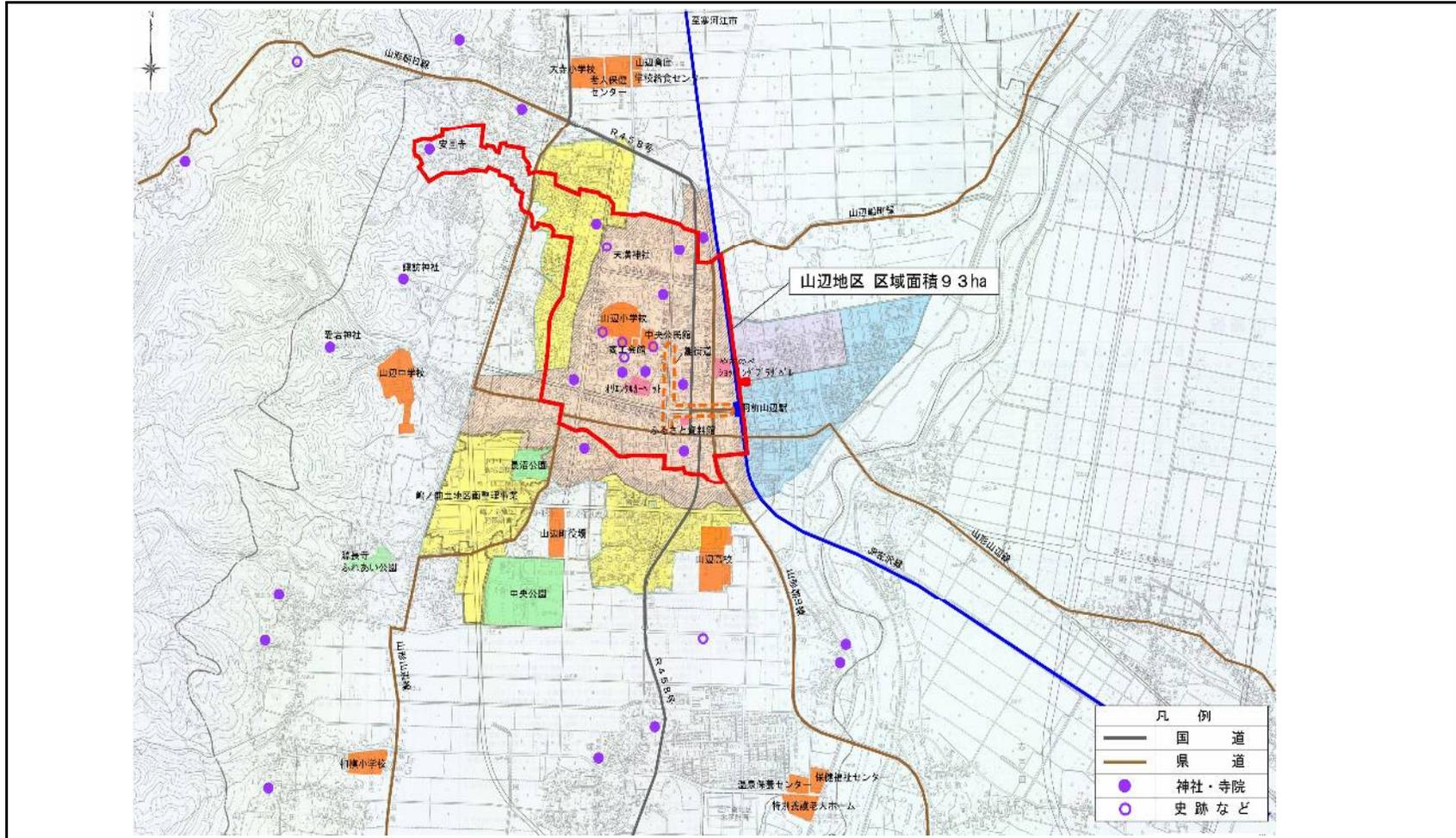
枅形の道路



YOUNBASE会での話し合い

都市再生整備計画の区域

山辺地区(山形県山辺町)	面積	93 ha	区域	大字山辺の一部
--------------	----	-------	----	---------



山辺地区(山形県山辺町) 整備方針概要図

目標	地域資源や都市ストックを活用した町民が誇りを持てる「まちの顔」としての再生	代表的な指標	ふるさと資料館・交流施設利用者数 (人/年)	3756人 (H20年度)	→	4,000人 (H26年度)
			空き店舗数 (店)	13店 (H19年度)	→	10店 (H26年度)
			イベント開催数 (回/年)	0 (H20年度)	→	2 (H26年度)

